

2月の窓

ここ2～3年、山形県内では大雪の冬が続いていました。この冬は、これまでのところ、山形市近辺では雪の少ない冬となっています。本校の正門とグラウンドも写真のように、雪はほとんど積もっていません。



今年の立春は2月4日で、俳句の世界ではこの日から春となります。そうは言っても、雪国の春はまだまだ先になります。立春は過ぎたものの風も冷たく春はまだ遠いことを「春浅し」とか「浅き春」と言います。

春浅き 水を渡るや 鷺一つ……………河東碧梧桐

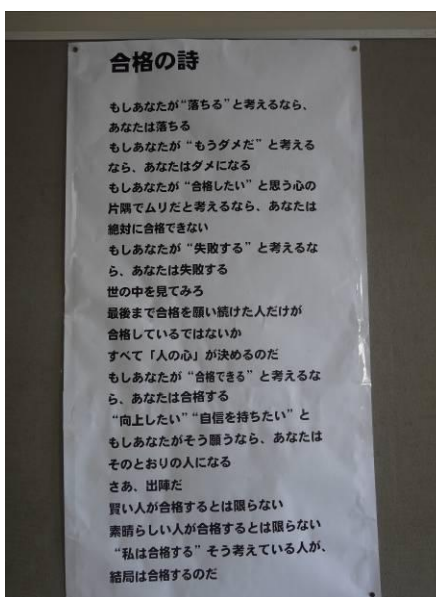
霜は冬の季語ですが、立春を過ぎて降る霜「春の霜」は春の季語になります。冬の霜と違って、春の霜は日が昇るとすぐに消えてしまうことから、春が近いことを感じることもあります

これきりと 見えてどっさり 春の霜……………一茶

1月18日と19日、大学入試センター試験が実施されました。山形県内では、山形大学（小白川キャンパス）、県立保健医療大学、山形大学工学部、新庄神室産業高校、鶴岡中央高校、東北公益文科大学の6会場で行われ、特に大きなトラブルもなく終了しました。

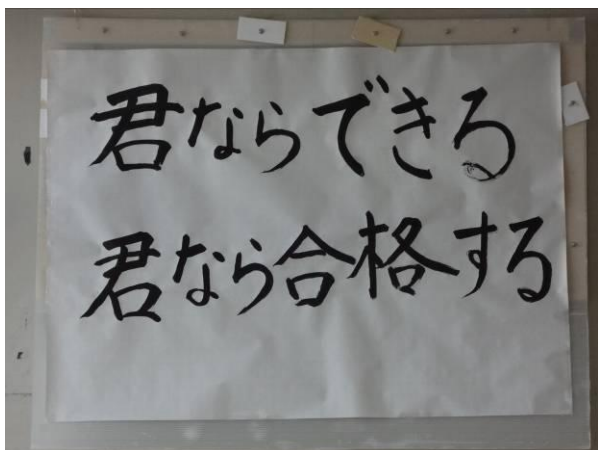
センター試験の前日には、「出陣式」といって3年生を激励する会を開催しています。他の高校でも、名称は違いますが、それぞれ趣向を凝らした激励会を行っており、テレビや新聞でも報道されます。本校の出陣式では、先生やPTA会長からのユーモアを交えた激励の後、2年生のクラス代表が3年生のクラス代表に千羽鶴を贈りました。学年主任の先生は、アメリカの作家ナポレオン・ヒルの「信念の詩」という詩を紹介した後で、一部を受験生向けに修正して、最後は「合格の詩」とタイトルまで変えて熱く語ってくれました。最初の写真は、千羽鶴を贈呈してい

るところ、次の写真は、学年主任の先生による「合格の詩」です。



センター試験初日には、私も小白川キャンパスへ3年生の激励に行ってきました。キャンパスには積雪もなく、穏やかな天候で交通機関の遅れなどもなく、生徒も時間前に試験会場へと向かっていきました。長く勤務している先生によると、雪のないセンター試験は、ここ何年なかったそうです。

センター試験後3年生は、1月末から始まる私立大学二次試験や2月下旬の国立大学二次試験に向けて、気持ちを切りかえて勉学に励んでいます。廊下の檄文も新しくなり、写真のようになりました。



酒田市出身の詩人吉野弘さんが、1月中旬亡くなられたという報道がありました。87歳でした。吉野さんの詩はわかりやすいものが多く、多くの人に愛されてきました。朝日新聞の「天声人語」でも、「とかく難解な現代詩にあって、わかりやすい言葉で人間をうたった」と評し、「その名前よりも、その詩の方が知られていた人といえれば失礼になろうか」と書いていました。平成17年からおよそ10年間の

本県教育の進むべき方向を定めた「第5次山形県教育振興計画」では、「いのち」「まなび」「かかわり」をキーワードとしていますが、この計画に大きな示唆を与えてくれたのが「奈々子に」という詩でした。また、本県出身や本県にゆかりのある作家・詩人・歌人等の作品を集めて編集した「やまがた文学の世界」の最初に取り上げられたのが「I was born」という詩でした。中学校の教科書にも掲載された「夕焼け」に出てくる若い娘さんや、結婚式でよく紹介される「祝婚歌」に共感を覚えた方も多くおられることと思います。ご冥福をお祈りいたします。

1月31日から2月2日まで、ナナ・ビーンズにある県芸文美術館で、「山形東高校美術部・書道部合同送別展」が開催されました。1・2年生の美術部員と書道部員による合同の作品展で、3年生の卒業前のこの時期に開催しています。読売新聞の「Friday やまがた」という欄で紹介していただいたこともあり、多くの方にご来場いただきました。写真は、書道部と美術部の作品の一部です。



最後に、今月も校内にある芸術作品を紹介します。

本校の卒業生で、現在本校PTAの役員をしていただいている方から、昨年秋に絵画と版画を寄贈していただきました。現在の校舎が建てられる前の旧校舎などを描いた4枚の絵画と版画で、作品プレートをつけて中央廊下に展示しています。

最初の2枚の写真は、大堺利吉さんの版画で、「今日晴れ渡る」と「骨をつらぬく」というタイトルの作品です。グラウンドから旧校舎を描いたもので、この校舎の時代は、生徒昇降口がこちら側にありました。なお、「今日晴れ渡る」と「骨をつらぬく」というタイトルは、本校の応援歌と遠征歌の最初に出てくる一節です。次の写真は、井上庫太郎さんの「グラウンドよりの風景」という絵画です。これもグラウンドから校舎を描いたものですが、当時は、同じグラウンドで、野球部とサッカー部と一緒に練習をしていました。調べてみると、大堺さんは昭和4年、井上さんは昭

和9年の卒業生であることがわかりました。

最後の写真は、本校旧職員の細梅久彌先生の「山形東高校旧校舎」という作品で、古い校舎の時代の玄関を描いたものです。細梅先生の作品については、7月の窓でも紹介しましたが、「初市」というタイトルの大きな作品の隣に、この絵を飾らせていただきました。

